

Vito Carlos Quiroz Rivadeneira 氏によるワークショップ
「アンデスの民族衣装に映し出される色」

ボリビアのアンデス高原には今も先住民族が暮らし、彼らのカラフルな民族衣装の色づかいはアンデスの自然を映し出しています。今回のワークショップでは、そのアンデスの民族衣装の色についてお話しします。

今日のテーマは織物です。アンデス地方では織物を作っている村がたくさんあります。村の人たちには織物がとても大事なものです。スペイン人が征服してくるまでは国境はまったく無かったのです。なのでそれぞれの民族の人がつけている衣装でどこの人かがわかります。織物はそれぞれの人が住んでいる自然をモチーフにしています。

模様が自然の中の動物や植物などを表現しています。

それぞれの人々がどの地方に住んでいるかは織物の模様でわかります。

織物はほとんど女性が作っています。

女性たちが織っている織物は自分たちの村を表しています。

小さな子供たちがお母さんが織っているのを見て覚えていきます

お母さんは娘に教えてはいけません。というのは、女性の間で昔から母から子に教えると自分の能力が失われると言われているので教えることはしません。

自分の母や祖母が織るのを見ながら覚えます。女性が結婚するまでは服の織物は作っていいですが、結婚する年頃には大きな物も作っていいと言われています。

結婚後、織物に使っていい色は嫁ぎ先の家族の色を使います。ポンチョ、袋もの、毛布、帽子、民族衣装で使うベルトのような物などです。

これはポンチョです。真ん中に穴があいており頭からかぶります。

ボリビアは寒いので厚みがかかなりあります。

色はどこの地方に住んでいるかによって変わります。

この織物は毛布に近くとても重いです。

色は何の植物を使うかによって変わります。

スペイン人にとってこれら織物はとても重要なもので、スペインに持ち帰り王様に贈呈するのです。アンデスがスペイン人に征服されたことによって失われたものが多い中、織物は残っています。

アンデスの織物はスペイン人を介することで世界中に広まっていきました。

昔はコットン（木綿）を使っていましたが、その後、ラマ・アルパカ・羊の毛を使うようになりました。羊毛はスペイン人が羊を連れてきたことで使うようになりました。

はじめはコットンだけでしたが動物の毛を使うようになりより多様になりました。

昔は自分たちのために織っていた織物ですが今は主に商業用に織っています。

織り方は昔からアンデス地方で伝わるままで今も織られています。

織物に関しては終わりです。

次は染色についてです。動物の毛を染めるのに使うものは自然の物を使います。それぞれの地方に自生している植物を使うので地方ごとに違う色がでます。

手順は次の通りです。動物の毛を刈る→集める→大釜に水を入れ火にかける→植物を入れる→植物から色が出なくなるまで煮込む→火からおろして日陰に置く→毛を入れる→色が染み込むまでおく→十分に染み込んだら出して陰干しにする→乾かす→水洗いし水が澄むまですすぐ→乾かす。(その後、糸を紡ぐ) これらの作業はすべて女性が行います。

織物に関する知識は女性が持っており女性が使う知識なのです。

高原に住んでいる女性にとって知識の有無が重要です。自分たちで染色に使うものはすべて女性が持ってくるのです。

染色用の植物は、タンポポの葉、さつまいもの皮、紫玉ねぎ、ナス(表面のみ)など使います。まだ出すことが出来ない色もあり、どうやって出しているか分からない色もあるのです。地方により微妙に色が変わります。

伝統的な染め方を説明しましたが今でも同様、伝統的に行われています。

同じボリビアでも自然が多様です。これら古き良い伝統はなんとか残していきたいと思っています。

<以下は持参した資料を見せながらの解説>

アグワヨ(Aguayo)(織物)について説明します。男性も女性もつかうもので、これもラマ・アルパカ・羊の毛糸を使います。長い織り機で織り、地面に水平に織物を置きます。染めた毛糸を織ります。

リュック(Dバッグ)のようにして背中に背負ったり、食べ物がさめないように包んで使ったりします。

これらは売るために作ったものです。

女性はアグワヨに色々なものを包んで使いますが赤ちゃんもくるみます。アグワヨをテーマに描く画家もいます。

これは動物の模様で鳥だと思います。コロナ禍でマスクも作られています。持ち運びできるよう長く作ってあります。地方によって色が変わります。これは他の地方に比べ明るい色調になっています。

ボリビアの歴史がアグワヨに現れているといって過言ではありません。私たちはどこから来て何者なのか、どこへ行きたいのか。アグワヨが教えてくれています。

以上

2021年5月5日 14時~14時30分

於: Cozy Art Space 画廊 一修悠